

やまぐちピースフォーラム

～秋葉広島市長と共に考える核兵器のない未来～

生活協同組合コープやまぐち

全域理事 西山 宏子

1. この企画に取り組んだ背景

- (1) 「原爆被爆・終戦 65 年」に節目の年を実感してもらう取り組みを行いたかったこと。
- (2) 2010 年 5 月、山口県内すべての自治体が平和市長会議に加盟（広島県について全国で 2 番目）されたこと。

《県内行政と生協組合員との相互理解と信頼関係》

①コープやまぐちでは「行政も生協組合員も地域のより良い暮らしを願っている。お互いの思いを共有し協力することはより良い街づくりの力になる。」という考えのもと「行政と生協組合員との懇談会」（以下、行政懇談会）を 14 年前にスタートしました。

②以降、毎年の行政懇談会を積み重ねる中で深めてきた行政との相互理解と信頼関係が、平和市長会議全自治体加盟やピースフォーラムへの首長参加につながりました。



- (3) 昨年、ピースフォーラム（広島平和文化センター理事長スティーブン・リーパー氏や山田平生町長を招いての講演や対談）を開催して、平和活動や環境活動等のくらしの安心を築く運動は、生協組合員だけでなく、行政や他団体等の地域に共感できる仲間を広げていくことが大切だと実感したこと。

2. めざしたこと

- (1) 平和市長会議の取り組みと県内 19 自治体の加盟（広島県に続く 100%加盟）を広く県民に知っていただく。
- (2) 秋葉市長の講演を通じて、核兵器廃絶に向けた市民運動の大切さを、県民と自治体のリーダーとともに知る。
- (3) 市民・自治体・その他団体の平和への思いを聞き、共感することで、とともにすすめる平和運動が広がっていくきっかけをつくる。

3. 準備したこと

- ・プログラムは、第 1 部を「秋葉市長による講演」、第 2 部を「県内首長と共に考える『平和』」としました。
- ・「秋葉市長のお話を市民と一緒に聞いて、一緒に学習し、一緒に考える場を設けたい」と市役所や役場に伺って県内全首長へ直接参加を呼びかけました。その呼びかけに 8 自治体の首長・副首長が当日参加してくださいました。また、公務で当日参加できなかった首長もピースフォーラムにメッセージを寄せてくださいました。
- ・生協組合員、被爆者支援施設「ゆだ苑」関連団体を中心に、様々な団体に参加を呼びかけたり、地域情報誌などを使って一般県民にも参加を呼びかけました。

4. 開催内容

(1) 主催 山口県ピースアクション実行委員会
(構成団体) 生活協同組合コープやまぐち、山口県原爆被害者団体協議会 (以下、山口県被団協)
(財) 山口県原爆被害者支援センターゆだ苑 (以下、ゆだ苑)、山口県連合青年団
山口県生活協同組合連合会

(2) 日時・場所 2010年6月30日(水) 13:00~15:30 (山口南総合センター)

(3) プログラム

13:00~ 開会のあいさつ (山口県ピースアクション実行委員長 有吉政博)

10:05~ **第Ⅰ部** 講演会「核兵器のない平和な世界を目指して
~21世紀は、市民の力で問題を解決できる時代~」
広島市長 秋葉忠利氏

14:35~ **第Ⅱ部** 「県内首長と共に考える『平和』」

参加者

山口市	渡辺純忠市長	和木町	上岡宣雄副町長
田布施町	長信正治町長	周防大島町	岡村春雄副町長
平生町	山田健一町長	広島市	秋葉忠利市長
萩市	瀧口治昭副市長	山口県被団協	竹田国康会長
美祢市	林 繁美副市長	市民代表 (ピースサポーター※)	横田素子さん
柳井市	上田順二副市長	司会	西山宏子

※ ピースサポーター：悲惨な戦争を二度と起こさないために、山口県内の戦争体験談や原爆被爆体験などを同じ組合員の立場から語り継いでいく組合員。

内容

- ・各首長の平和市長会議へ加盟された思い、参加者の平和への思いをお話ししていただきました。
- ・「わたしにとって平和とは」というテーマで一言ずつメッセージをいただきました。

15:25~ **フィナーレ** 山口県出身の歌手ちひろさんと参加者みんなでの手話コーラス
♪「私と小鳥と鈴と」

(4) 参加者 475名 (首長・副首長を含む)

5. 当日の様子

第Ⅰ部 講演会「核兵器のない平和な世界を目指して」 広島市長 秋葉忠利氏

最初に、広島市長であり平和市長会議の会長である秋葉忠利氏より、講演していただきました。

「核兵器の廃絶は多数派の声であること」、「都市を介した市民参加や都市同士の連携が世界を動かすこと」等、市民参加の大切さと力強さを語られ、「2020年に核兵器廃絶を実現に向けていっしょに努力をすすめていきましょう」と訴えられました。



第Ⅱ部 「県内首長とともに考える『平和』」

首長・副首長、秋葉市長、被爆者代表、市民代表に、平和市長会議に加盟された思いや、ご自身の平和への思いを短い時間でしたがお話ししていただきました。その言葉の一つひとつは、参加された方々の心にたくさんの新たな発見や共感、感動を生みました。

最後に、「あなたにとって平和とは」というテーマで一言ずつメッセージをいただきました。「愛」「家庭」「命の尊さ」など、どれも身近な平和を願う言葉で、みんなの心に印象深く残りました。



フィナーレ

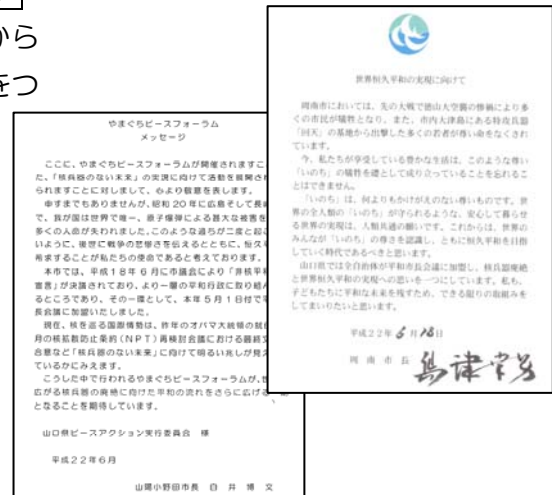
最後に、山口県出身の歌手「ちひろさん」とともに「私と小鳥と鈴と♪」を会場の参加者全員で手話コーラスしました。歌詞にある「みんな違ってみんないい」。相手を思いやる、大切にすることの歌詞がこのフォーラムを象徴しているようで、会場は一体感につまれました。



当日、公務でご参加できなかった首長からのメッセージ

当日、会場への参加が叶わなかった首長のみなさまからは、今回のピースフォーラム開催への激励や平和の思いをつづったメッセージをいただくことができました。

いただいたメッセージは、フォーラム当日の資料とともに参加者全員に配布し、首長のみなさまの平和への思いを感じることができました。



会場ロビーでの展示

被爆者支援施設「ゆだ苑」の原爆資料の展示や、県内7地域の組合員による平和活動のパネル等の展示を行い、参加者に原爆被爆の実態や活動の様子を知らせました。



参加者の声

(1) 秋葉市長の講演から

- 一人でも叫んでも無意味だと思っていたが、みんなで声をあげることは大切だと思った（20代）。
- 市民一人ひとりの考え、行動、取り組みこそが大事なこと。国や指導者の話ではない、人任せでは何も進まないと知りました。（30代）
- 核兵器廃絶は願いではあるが、どこか理想のものという思いがありました。しかし、市民の思いは現実になる、そう確信できました。（40代）

(2) パネルディスカッションの声。

- 核廃絶に向けて、若い私たちの声を届けることを忘れてはならないと感じました。（19才）
- 各首長の平和への思いや心強いご意見を伺い、大きな力をいただいた気がしました。（70代）
- 平和の活動はそれぞれの立場からいろんな表現・主張があっただと改めて思いました。（40代）

6. ピースフォーラムをふりかえって

- ① 県内 8 自治体の首長・副首長と市民が一同に会し、意見を交換し、さらにその場に秋葉市長にご参加いただけたことは、今後の自治体と市民がともにすすめる平和運動においてとても意義深い時間になりました。今後の取り組みの一步が築けたのではないかと思います。
- ② 平和市長会議への加盟はスタートです。そして次のステップは核兵器廃絶を願う自治体と市民がともに行動することだと思います。例えば山口県版の平和市長会議のようなことができればらしいな、と考えています。
- ③ 市民の平和運動に、自治体や地域住民を巻き込めるのは生協だと思います。そういうリーダーシップを発揮していく生協の社会的役割を今後も果たしていきたいと思っています。

